

# ■ 若手研究者のための対話力トレーニングプログラム、開発しました

対話力トレーニングプログラム（Dialogue Skills Training Program）を開発しています。

伝え上手になるのも大事だけど、聞き上手になるのもとても大事。そんなコンセプトのプログラムです。

## ・「対話」の定義

この定義が好きです。

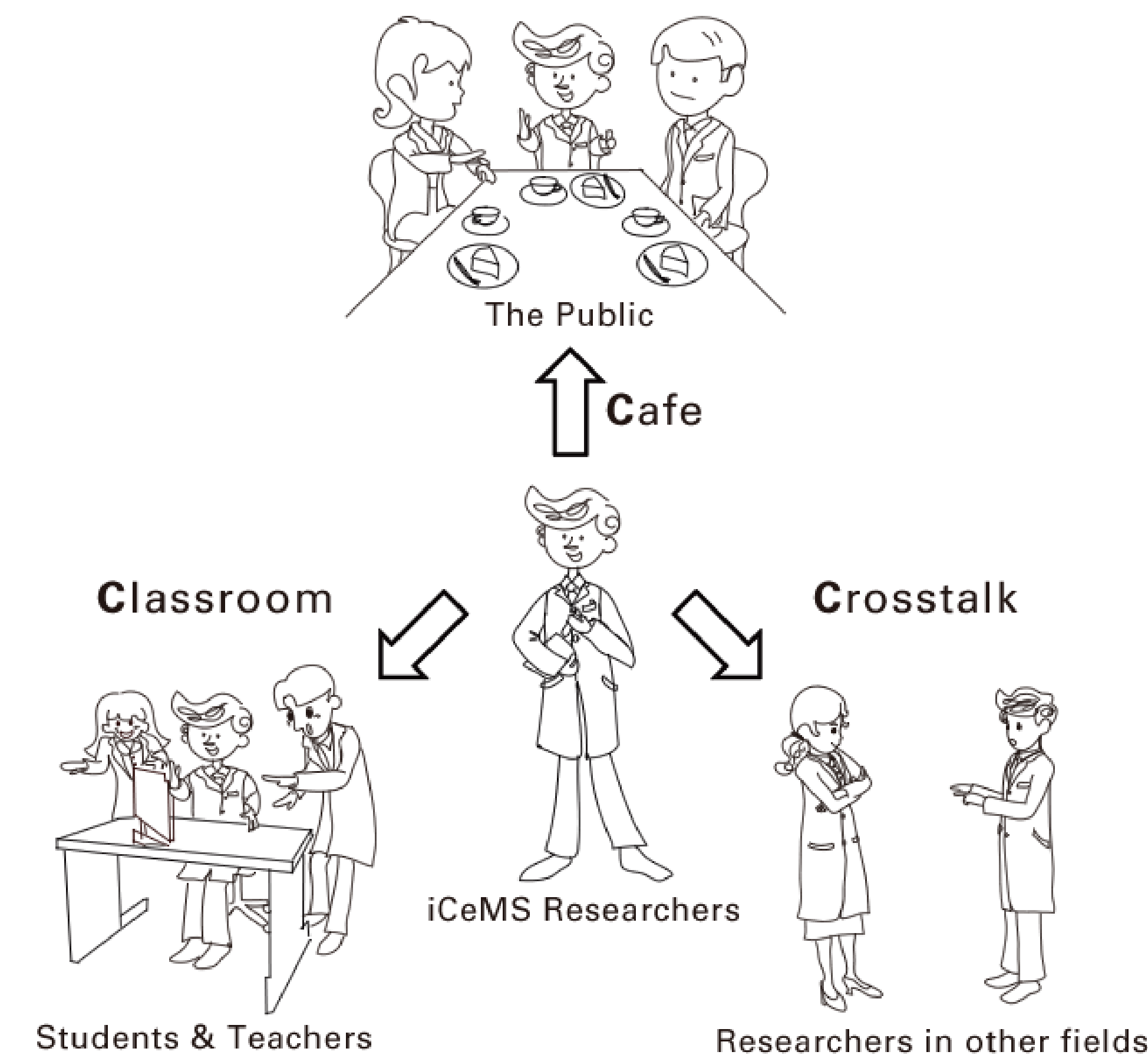
**Sharing ideas, information, experiences and assumptions for the purposes of personal and collective learning** (National Park Service, U.S. Department of the Interior)

## ・背景

科学が社会に与える影響、また、社会が科学に与える影響が、大きくなってきています。

研究者による、成果を発信するための一方向的なコミュニケーションだけではなく、研究者自身が社会の中で自身の立ち位置について考えることも必要です。

そのためには、様々な価値観や倫理観をもった人々との双方向的な「対話」が行われることが大切です。



## ・トレーニングプログラムの流れ

### Step1 対話を学ぶ



2-3 時間のプログラム  
過去の対話場面のビデオも視聴

### Step2 対話を実践する



「iCeMS カフェ」が、研究者にとっての  
対話練習の場

→展示中！

**iCeMS カフェの記録**

### Step3 対話を振り返る



「iCeMS カフェ」終了直後に、録画した  
ビデオを見ながら、振り返り

## ・これまでの実績

京都大学アカデミックデイの開催前に（2011 年度～2014 年度）

京都大学 iCeMS 主催のサイエンスカフェ「iCeMS カフェ」の前に（2011 年度～）

この他、JST 科学コミュニケーションセンターを通じて、国内の研究機関に提供しています。

## ・開発チーム

加納 圭 滋賀大学教育学部／京都大学 iCeMS

高梨 克也 京都大学学術情報メディアセンター

森 幹彦 京都大学学術情報メディアセンター

秋谷 直矩 山口大学国際総合科学部

加藤 和人 大阪大学大学院医学系研究科／京都大学 iCeMS

水町 衣里 京都大学 iCeMS

元木 環 京都大学情報環境機構／学術情報メディアセンター

森村 吉貴 京都大学情報環境機構／学術情報メディアセンター

城 綾実 京都大学 iCeMS

## ■ 現在、対話の「ものさし」作成中

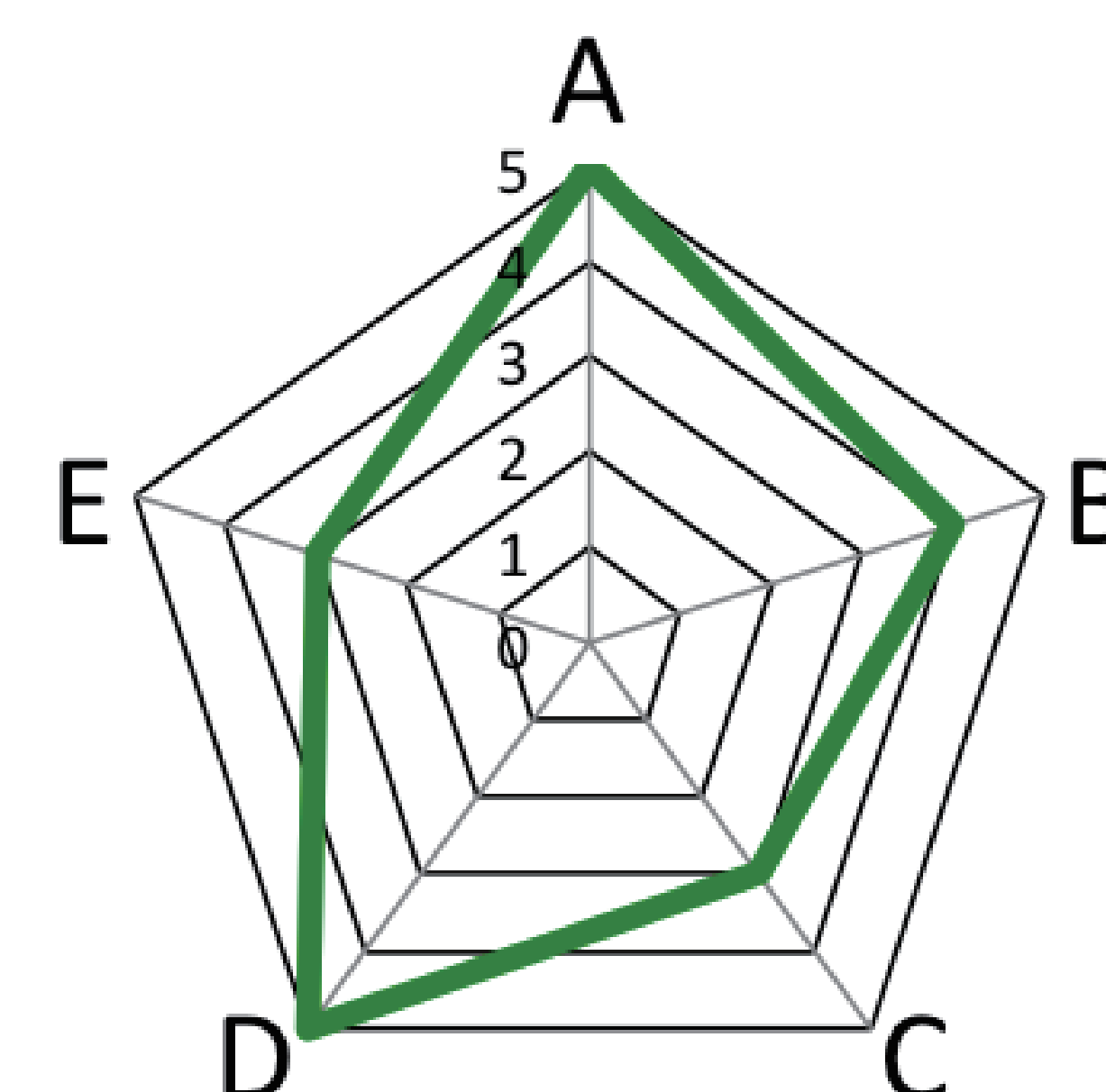
プログラムのねらいを明確にするために、プログラムの改良をしやすくするために、プログラムの効果を知るために、対話の「ものさし」を作成中です。  
主に、3つの観点から成る「ものさし」です。

- 科学を伝える
- 研究者と参加者が学び合う
- 社会の中の科学を研究者と参加者が一緒に考える

## ■ 今日は、いい「対話」しましたか？

→募集中！ あなたの経験、聞かせてください

「ものさし」といっても  
目指すのはこんなイメージ



あなたの経験、きかせてください  
いい「対話」って何ですか？

注：このスペースには、来場者のみなさんからのコメントを付箋に書いて貼り出していました。

「自身にとって新しい発見があるのが、いい対話」や「自分の伝えたいことではなくとも、相手のコトバで相手に気づきを与えることができるのが、いい対話」「お互いに楽しいのが、いい対話」などなど、いろいろなコメントをいただきました。ありがとうございました！